

# 上海「ミニ」通信

(北九州市 上海事務所から中国・上海の「今」をお伝えします！)



今回の主役 王東武さん (55歳)

『追悼特別展「高倉健」』は会期半ばで1万人が突破するなど、大盛況のうちに終わりました。

会期中、多くの中国人が訪れたと思いますが、その中の一人、浙江省に住む王東武さん(55歳)と、ご縁があり、NHK北九州放送局とともに、自宅や仕事場にお邪魔し、王さんの半生と彼にとっての「高倉健」を語っていただきました。その中から中国の過去や現在が垣間見ることができたので、その内容などをレポートします。

平成 29 年 3 月 9 日

## 【第 12 回】「高倉健展」開催後の余波について

### 【今日のポイント】

- ◆ 今回 NHK と密着した王東武さんにとって、「高倉健」とその映画は初めて触れる「外国」で、それはその後の彼の生き方を大きく左右するほどの出会いだった。
- ◆ 王東武さんのような高倉ファンはマニア的な存在ではない。当時の若者の多くが影響され、今でも多くの人の記憶に刻まれている。
- ◆ 来月末には、経営者仲間 9 人とともに、最後の出演作「あなたへ」のロケ地や高倉健の卒業した学校を見に行くなど、「高倉健」聖地巡りの旅を予定中。

### 1 王東武さんにとっての「高倉健」とは？

王東武さんは今年55歳で、「君よ憤怒の河を渡れ(中国名 追捕)」を見たのは高校生の頃。当時は、映画の中のセリフと主題歌を暗記できるくらい、映画館に何度も何度も通い詰めたとのこと。

最初は、高倉健さんのサングラスや服など、外見のかっこ良さには目がいかなかったが、何度も見るうちに、その外見だけではなく、映画に出ている日本や、高倉健が演じる主人公の内面に関心が移って、当時の中国とはあまりに違う隣国の日本への関心が高まるとともに、高倉健が演じる役の中に、自分を信じて己を貫く、理想の人間像を見たようです。

多くは語られませんが、文化大革命の当時、山東省で公務員だった王さんのお父様が、理由がよくわからないまま拘束されたり、それが原因で色々差別を受けたりしていたようで、その自分の状況と、逆境に一人で立ち向かう主人公を重ね合わせていたようです。

王さんは現在では会社経営者として成功し、浙江省郊外の広大な土地で、日本庭園・家屋の設計や錦鯉の養殖など、映画の影響もあり日本の伝統文化にかかわる仕事をしています。今でも仕事で疲れた夜は高倉健の作品を見ながら寝ることもあるそうで、今でも心の支えになっているようです。



昔を懐かしみながら、NHK のインタビューを受ける王さん



王さんのお宝グッズの一つ、映画封切り時に買った映画のストーリー本(1981年発行!!)

### 2 王さんの「高倉健」への愛は、中国でレアでマニアなものなのか？

今回は、私が中国で知り合った王さんをNHKに紹介して、王さんの密着取材になりましたが、彼だけが単なる高倉マニアなののでしょうか？決してそうではなさそうです。現に取材翌日に王さんの経営者仲間とご飯をご一緒した際は映画の主題歌をみんなで合唱してくれたり、経営者仲間「聖地巡り」的な旅行を計画していたりするなど、王さんのように、高倉健を通じて初めての海外＝日本に興味を持ち、文化大革命～改革開放の荒波を乗り越えて、社会的な成功を得ている人はたくさんいるようです。

上海事務所としても、「高倉健」というキーワードが中国で北九州市を知ってもらえるきっかけとしてどれくらい有効かどうかなど、もう少し検証していきたいと思えます。

なお、この模様は、3月21日から24日夕方のNHK総合テレビ「ロクいち！福岡」の中の上海特集の一部として放送されます。この枠では、他にも本市環境局の上海での取組や、本市認定の「技の達人」たちと商談進行中の和室設計会社なども取り上げられる予定です。ぜひ見てみてください！！(ちなみに、このあと、NHKの取材クルーは、北京で「君よ憤怒の河を渡れ」のリメイクを作成中の大物映画監督ジョンウーに接触するため北京に移動しました)